

## I. 背景

### 1. 現状とポテンシャル

	日本の国立公園	北米の国立公園
自然環境	<b>バラエティ豊かな自然</b> (多様な自然景観・野生生物と季節変化)	ダイナミックな自然 (規模が大きいが一時的)
土地所有	国・公有地、民有地	国有地(公園専用地)
魅力ポイント	<b>自然と人の暮らしの調和</b> (自然・文化・歴史・食・温泉...)	人為を排した、原生的な自然

※ 外国人が日本の旅行で体験したいこと：1位 日本料理、**2位 自然、7位 温泉** (環境省調査2015)



日本の国立公園は、**優れた自然のみならず、その自然に育まれた伝統文化や食などの地元特有の人の暮らしに触れられる公園**

### 2. 課題

インバウンドに対して、国立公園のポテンシャルが十分に引き出されていない

- ①外国人が満喫できるメニュー、快適な利用環境の未整備  
→魅力的なツアーの開発不足、多様なアクティビティや受入れ体制の不備
- ②外国人をも魅了する公園利用拠点の不備  
→国立公園の結界感の不足、ふさわしいまちなみ景観や上質な民間施設の整備不足 (ガッカリポイントの未解消)
- ③外国人に日本の国立公園の魅力が伝わっていない  
→世界的な認知度不足

➤ 自然と人の暮らしが調和する日本らしい国立公園のポテンシャルを活用し、世界を魅了するナショナルパーク・ジャパンとしてブランド化に  
**日本の国立公園を、世界の旅行者が長期滞在したいと憧れるデスティネーションへ**

## II. 具体的取組

### 国立公園ステップアッププログラム2020 (仮称)

日本の国立公園を世界にアピールするとともに、**外国人も惹きつける国立公園を更に活用した具体的なプロジェクトを、H28年度内を目途に策定**

#### 満喫メニューの整備・支援

##### ●インバウンドの受入れ環境の整備



地域の自然・伝統等を活かした  
外国人向けツアー (アウトドア、文化体験等) の開発



環境省ビジターセンターに  
民間ツアーデスクを設置

温泉体験プログラム・  
健康増進ツアー (TOJ) の開発

##### ●IT活用による 観光・安全等の情報提供等

ビーコン信号を受けたスマホが情報検索



【イメージ】

クラウドからビーコンの場所の情報提供  
(多言語対応の観光・安全情報)



観光スポットに  
ビーコンを整備

#### 上質感の創出

##### ●ナショナルパークに ふさわしいまちなみ景観の形成 【国交省・観光庁と連携】



官民連携した  
まちなみの統一

景観に配慮したコンビニ

##### ●海外の富裕層も惹きつける 質の高い民間施設の円滑な誘致 大会議場、ショッピング施設等を公園事業 施設の付帯として認められる**基準を明確化**



※国立公園の利用施設計画等の見直しを柔軟に実施

#### 宿舎事業の再生・経営支援

##### ●官民ファンドによるホテル再編への 支援

【経産省と連携】

##### ●民間宿舎事業者の マッチング

【経産省と連携】

既存施設事業者と参入希望事業者のマッチング



#### 海外への情報発信の強化

##### ●効果的に海外に情報発信

【外務省・観光庁と連携】

**全国の国立公園に展開！！**